

A・B 科目は、ファッション色彩能力検定試験 2 級および 3 級の公式テキスト『ファッション色彩 I』『ファッション色彩 II』（日本ファッション教育振興協会編・文化出版局発行）の内容を出題範囲とします。

A 科目では色彩の理論や知識について問います。また、B 科目では実際に図版や写真を見ながら色彩に対する判断を求めます。これらのテストは、知識の正確さと色彩の視感的判断の適切さを検定することが目的です。そのため、85%以上を目安とした高い正答率を求めます。



**A 科目《理論、知識を問う問題》** 試験時間：60分

A 科目では、『ファッション色彩 I・II』全ての範囲から、色彩に関する理論と知識について出題します。正誤問題、選択問題などの形式で、無作為に出題します。

問題例

各設問について、その記述の正誤を答えなさい。

- Q 1. 変色とは、明度が増える現象を指す。
- Q 2. 白熱電球を使った照明は、暖色系の色の発色が悪い。
- Q 3. 明度の高い色は暖かく感じる。
- Q 4. 環境照明に色温度の高い照明を使う場合、照度を高くした方が快いとされる。
- Q 5. 彩度差や明度差が大きくても、色相差が小さいと視認性は低くなる。

**B 科目《色を見て答える問題》** 試験時間：60分

B 科目では、色彩を「見て」答える問題を出題します。

問題中に図版や写真が提示され、それらを見ながら解答します。必要であれば図版を切り取り、比較しながら解答を導きます。

出題内容そのものは 2・3 級と同程度の基本的なものが、色彩に対する正確で適切な判断力を求めます。

**★合否の判定について**

A・B 科目 / 85%以上の正答率を目安。

C 科目 / 「客観性」「整合性」「理論・知識の応用力」を複数の審査員によって評価。

3 科目全てが基準に達していることが合格の条件となります。  
(※科目合格はありません。)

問題例

QB-7  
a~dの図版の配色は、色相で移調した関係になります。白抜き部分に対して入る適切な色を選択肢から選び、解答番号の記号をマークしなさい。

**その他・準備など**

A 科目：筆記用具。

B 科目：筆記用具、はさみ、糊。

C 科目：筆記用具、はさみ、糊、定規（10~15cm程度）。  
記述用として色鉛筆、カラーペンなど有色の筆記用具の使用が認められます（赤、青の2色程度の準備

で十分対応できますが、持ち込む色数については特に指定しません）。

以上は、受験者が各自で準備、持参してください。

C 科目で使う色票は、主催者が用意します。マンセルカラーシステムに準拠した「ベーシックカラー140」（日本色研事業）を予定しています。